

みなさんは「SDGs」をご存知ですか。これは Sustainable Development Goals を略して「エスディー・ジーズ」と読みます。「SDGs」は2015年9月に国連で世界中の国々が決めた「持続可能な開発目標」です。世界中のすべての人々が幸せに暮らすことができる社会をつくるための2015年から2030年までの15年間の目標です。三重県環境学習情報センターでは、この目標を広く知っていただくため、今回は「SDGs」を特集しました。

SDGs (持続可能な開発目標) って

世界のリーダーが2015年9月の歴史的な国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた17の「持続可能な開発目標(SDGs)」は、2016年1月1日に正式に発効しました。今後15年間、すべての人に普遍的に適用されるこれら新たな目標に基づき、各国はその力を結集し、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処しながら、誰も置き去りにしないことを確保するための取り組みを進めてゆきます。

SDGsは、ミレニアム開発目標(MDGs)の成果をさらに一歩進め、あらゆる形態の貧困に終止符を打つことをねらいとしています。新たな目標の独自性は、貧しい国も、豊かな国も、中所得国も、すべての国々に対して、豊かさを追求しながら、地球を守ることを呼びかけている点にあります。そして、貧困に終止符を打つため、経済成長を促し、教育、健康、社会的保護、雇用機会を含む幅広い社会的ニーズを充足しながら、気候変動と環境保護に取り組む戦略も必要であることを認識しています。

持続可能な開発の3つの側面

持続可能な開発は、将来の世代がそのニーズを充足する能力を損なわずに、現代のニーズを充足する開発と定義されています。

持続可能な開発は、人々と地球にとって包摂的、持続可能かつ強靱な未来に向けた取り組みを必要としています。持続可能な開発を達成するためには、経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが欠かせません。これらの要素はすべて、相互に関連しているだけでなく、安寧に不可欠だからです。

あらゆる形態と次元の貧困に終止符を打つことは、持続可能な開発の必須要素です。これを達成するためには、すべての人々により多くの機会を提供し、不平等を削減し、基本的生活水準を向上させ、公平な社会開発と包摂を促し、天然資源と生態系の総合的に持続可能な管理を促進することで、持続可能、包摂的かつ公平な経済成長を推進しなければなりません。

SDGsのもうひとつの捉え方-5つのP

持続可能な開発目標(SDGs)の諸目標とターゲットはいずれも、人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップという極めて重要な分野で、今後15年間の行動を促すこととなります。



人間 (People) – あらゆる形態と次元の貧困と飢餓に終止符を打つとともに、すべての人間が尊厳を持ち、平等に、かつ健全な環境の下でその潜在能力を発揮できるようにする(目標1、2、3、4、5および6)。

豊かさ (Prosperity) – すべての人間が豊かで充実した生活を送れるようにするとともに、自然と調和した経済、社会および技術の進展を確保する(目標7、8、9、10および11)。

地球 (Planet) – 持続可能な消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応などを通じ、地球を劣化から守ることにより、現在と将来の世代のニーズを充足できるようにする(目標12、13、14および15)。

平和 (Peace) – 恐怖と暴力のない平和で公正かつ包摂的な社会を育てる。平和なくして持続可能な開発は達成できず、持続可能な開発なくして平和は実現しないため(目標16)。

パートナーシップ (Partnership) – グローバルな連帯の精神に基づき、最貧層と最弱者層のニーズを特に重視しながら、すべての国、すべてのステークホルダー、すべての人々の参加により、持続可能な開発に向けたグローバル・パートナーシップをさらに活性化し、このアジェンダの実施に必要な手段を動員する(目標17)。